

# 2018年度 自己点検・評価 全学的課題事項について

◎はとりまとめ組織 ○は検討・連携組織

基準	評価項目	2018年度 全学的課題事項	課題への対応	
			対応組織	改善の方向性
【基準2】 内部質保証	(大学評価支援室) ■評価項目No.201 内部質保証のための全学的な方針と手続を明示しているか。	「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の行動指針」を定める必要がある。【努力課題】	◎大学評価支援室 ○教学部 ○教学企画部	関係組織が連携を図り、教育の企画・設計、運用、検証および改善・向上の行動指針を定める。
【基準3】 教育研究組織	(教学部) ■評価項目No.301 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	教育研究組織の編制原理の明確化について、目標年度内に完了すること。【努力課題】	◎教学部 ○教学企画部 ○研究部	2015年度からの全学的課題事項として、現在、教学部を中心に継続的に取り組みを行っている。引き続き、関係組織が連携を図り、教育研究組織の編制原理を策定する。
【基準4】 教育課程・ 学習成果	(教学部) ■評価項目No.401、402 授与する学位ごとに、学位授与の方針を定め、公表しているか。(401) 授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針を定め、公表しているか。(402)	「3つの方針一体的見直し作業部会」における全学的な見直し作業を、予定どおり完了すること。【努力課題】	◎教学部 ○教養教育センター	2012年度からの全学的課題事項として、現在、教学部を中心に取り組みを行っている。全学教学政策会議のもとに設置された「3つの方針一体的見直し作業部会」を通じて、DP・CP・APを見直しを行い、HP及び履修要項で周知する。
	(教学部) ■評価項目No.403 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	教育課程の順次性・体系性をより明確にするためには、カリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリング等を用いた個々の授業科目の順次性・体系性等を確認する体制を構築すること。【努力課題】	◎教学部 ○教養教育センター	2013年度からの全学的課題事項として、現在、教学部が継続的に取り組みを行っている。新たなポリシーに基づく教学マネジメント体制の確立に向けて、カリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリング等の策定について検討を行う。
	(教学部) ■評価項目No.405 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	大学院研究科博士後期課程において、在籍関係のない者に対し、学位(課程博士)を授与する制度が存続している。速やかに改善すること。【努力課題】	◎教学部 (各研究科)	2014年度からの全学的課題事項として、現在、教学部が継続的に取り組みを行っている。引き続き、教学部と各研究科が連携して改善に取り組む。
【基準5】 学生の 受け入れ	(教学部) ■評価項目No.503 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。	修士・博士課程は、依然として収容定員の未充足状態が続いているので、抜本的な大学院改革の推進等の改善が求められる。【努力課題】	◎教学部 (各研究科)	2011年度からの全学的課題事項として、現在、教学部が継続的に取り組みを行っている。全学教学政策会議、大学院教学会議及び各研究科委員会を中心に大学院改革を進め、定員未充足の解消を図る。